平成29年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	主要市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	事業量を拡大するため、国の交付金の導入を積極的に図る。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	事業量を拡大するため、国の交付金の導入を積極的に図る。
②①に基づく取組み結果	社会資本整備総合交付金を導入した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要市道	意図（対象をどうするのか）	測量、設計、用地補償、工事を行う。
②事務事業の概要	安全で快適な道路網整備のため、主要市道における歩道の整備、危険箇所の線形改良、排水整備、舗装改良を実施し、歩行者等の安全と交通の円滑化を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	事業開始前は、主要市道でも歩道が無く交通量に見合った幅員や舗装となっていなかった。住民の要望が満足となるよう本事業を推進する。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	主要市道の舗装改良及び用地取得を実施した。 （1）市道22号線道路改良工事（L=210.9m）、市道51号線舗装改良工事（L=186.0m）、市道19号線舗装改良工事（L=181.0m）（2）市道20号線用地取得（A=1,466.66㎡）

②成果を表す指標		指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	工事延長	1,617	2,362	1,068	m	業務取得
	ii	工事延長【平成23年度から累計】	3,364	5,726	6,794	m	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	－	－	－	%	市民意識調査

③事務事業のコスト		平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算（事業費）の主な内訳		平成29年度予算
事業費（千円）		219,836	289,032	金額（千円）	内容	139,834
	国支出金（千円）	69,098	80,315	24,278	市道22号線道路改良工事	30,053
	県支出金（千円）			18,625	市道51号線舗装改良工事	
	市債その他（千円）	51,500	107,300	12,018	市道19号線舗装改良工事	43,700
	一般財源（千円）	99,238	101,417	95,200	市道20号線用地	66,081

Ⅳ　評価・検討

①課題	市の主要な道路でも、歩道が無い箇所や狭い箇所が多く、交通量に見合った幅員や舗装構成になっていない。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げるため、主要市道の整備は不可欠である。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成28年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成28年度の計画	市道20、22、26号線、軽井沢周回道路、舗装改良工事	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	市道20、22、26号線、軽井沢周回道路、舗装改良工事	387,296	404,766	当初	387,296	289,032	H27からの繰越 16,530
				H27⇒28繰越	17,470		
③達成状況	未完了			補正			現年分 272,502
④未完了・非着手の理由	用地取得に係る業務が年度内に完了しなかったため。			流用・充当			
		平成29年度への繰越額（単位；千円）					14,986

平成29年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	交差点改良事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	平成28年度新規事業のため、前回掲げた評価なし。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	市道22号線交差点改良について、引き続き交差点部の路線測量を実施する。
②①に基づく取組み結果	なし。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要市道の交差点	意図（対象をどうするのか）	交差点の改良による安全性の向上・交通渋滞の緩和
②事務事業の概要	安全で快適な道路網整備のため、主要な交差点の右折車線、歩道の整備、交差点形状の改良を行い交通渋滞の緩和、交差点付近の安全性の向上を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	視界が悪く、歩行者が横断待ちするためのスペースの無い危険な交差点や、自動車交通量の増加に伴い、渋滞が発生している交差点がある。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	市道22号線の交差点改良予備設計を実施した。

②成果を表す指標		指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	工事実施箇所（累計）	5	5	5	箇所	業務取得
	ii	「道路の状況」不満足度	—	—	—	%	市民意識調査
	iii						

③事務事業のコスト		平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算（事業費）の主な内訳		平成29年度予算
事業費（千円）		0	2,621	金額（千円）	内容	3,000
	国支出金（千円）			2,333	予備設計	
	県支出金（千円）					
	市債その他（千円）					
	一般財源（千円）		2,621			3,000

Ⅳ　評価・検討

①課題	幅員が狭く見通しの悪い市道の交差点が多い。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	交差点改良の要望が多く、市民の安全のため早期に交差点改良を行う必要があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成28年度事業費の状況（単位；千円）					
		計画事業費	予算額			決算額	
①平成28年度の計画	市道22号線交差点（交差点改良予備設計）	4,000	4,000	当初	4,000	2,621	H27からの繰越
②計画に対する事業実績	市道22号線交差点改良予備設計			H27⇒28繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分　2,621
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成29年度への繰越額（単位；千円）					

平成29年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	一般市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	コスト縮減のための整備手法の更なる検討。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	コスト縮減のための整備手法の更なる検討。
②①に基づく取組み結果	設計比較及び再生材を使用してコスト縮減を図った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	一般市道	意図（対象をどうするのか）	安全でゆとりのある道路に整備する。
②事務事業の概要	道路排水施設の整備、舗装新設、狭あい路線の拡幅を行い地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	生活道路となる一般道路が未整備で、舗装整備や道路排水整備の必要があった。住民の生活環境が向上するよう本事業を推進する。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	舗装改良工事及び排水整備工事を実施した。 （1）市道2914号線舗装改良工事（L=121m）、（2）市道4333号線排水整備工事（L=57m）、（3）市道4103号線排水整備工事（L=171.3m）

②成果を表す指標		指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	工事延長	1,157	164	625	m	業務取得
	ii	工事延長【平成23年度から累計】	2,454	2,618	3,243	m	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	－	－	－	%	市民意識調査

③事務事業のコスト		平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算（事業費）の主な内訳		平成29年度予算
事業費（千円）		14,622	43,850	金額（千円）	内容	31,000
	国支出金（千円）		3,920	13,159	市道4103号線舗装改良工事	
	県支出金（千円）			7,636	市道4333号線排水整備工事	
	市債その他（千円）		2,400	7,612	市道2914号線排水整備工事	24,300
	一般財源（千円）	14,622	37,530			6,700

Ⅳ　評価・検討

①課題	道路排水施設の未整備箇所、舗装の不良箇所が多い。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げるため、一般市道の整備は不可欠である。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成28年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成28年度の計画	舗装等整備	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	改良工事及び排水整備工事（市道2914、4333、4103号線）	39,160	49,697	当初	39,160	43,850	H27からの繰越 10,537
				H27⇒28繰越	10,537		
③達成状況	完了			補正			現年分 33,313
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成29年度への繰越額（単位；千円）					

平成29年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	私道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	平成27年度の私道舗装整備要綱の改正により、舗装整備工事に加え舗装補修工事についても実施する。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	平成27年度の私道舗装整備要綱の改正により、舗装整備工事に加え舗装補修工事についても実施する。
②①に基づく取組み結果	舗装整備工事及び舗装補修工事を実施した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	私道	意図（対象をどうするのか）	舗装整備工事、舗装補修工事
②事務事業の概要	未舗装私道の舗装及び舗装済み私道の補修を推進し、地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	事業開始当初は多くの私道が未舗装で日々の生活や環境・衛生面に悪影響を及ぼしていたが、本事業の推進により未舗装区間が少なくなってきた。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	舗装整備工事及び舗装補修工事を実施。 整備工事：L=224.8m、補修工事：L=130m

②成果を表す指標		指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	工事延長	50	0	355	m	業務取得
	ii	工事延長【平成23年度から累計】	898	898	1,253	m	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	—	—	—	%	市民意識調査

③事務事業のコスト		平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算（事業費）の主な内訳		平成29年度予算
事業費（千円）		0	8,698	金額（千円）	内容	6,700
	国支出金（千円）			4,680	舗装整備工事	
	県支出金（千円）			4,018	舗装補修工事	
	市債その他（千円）					
	一般財源（千円）		8,698			6,700

Ⅳ　評価・検討

①課題	私道舗装整備要綱の見直しを図り、補修工事についても実施することになったことから、この制度を広く市民に周知すること。					
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	2普通	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	広く市民に対し公平に道路整備を進めていくため、私道整備と市道整備のバランスをはかり今後も引き続き鋭意進めていく。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成28年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成28年度の計画	私道組合（舗装整備工事、舗装補修工事）	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	私道組合（舗装整備工事、舗装補修工事）	6,260	10,740	当初	3,000	8,698	H27からの繰越 3,093
				H27⇒28繰越	4,480		
③達成状況	完了			補正	3260		現年分 5,605
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成29年度への繰越額（単位；千円）					

平成29年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	通学路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	市道12号線（歩道整備）の完了に伴い市道1号線の交差点部分の用地測量を行う。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	歩道整備に向け引き続き市道1号線歩道部の用地取得を実施し、市道49号線について修正測量を実施する。
②①に基づく取組み結果	市道1号線の用地測量を実施した。併せて同路線において取得した歩道用地について保全工事を実施した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	通学路に指定されている市道	意図（対象をどうするのか）	児童生徒が安全に登下校できるようにする。
②事務事業の概要	児童・生徒が安全に通学できるよう、歩道のない通学路に歩道を整備し、登下校における安全性の向上を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	平成24年度に学校教育課と実施した緊急合同点検により対策が必要な通学路を抽出し、通学路の拡幅や歩道を確保し登下校時における児童生徒の安全を図る。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	市道1号線において用地測量、用地取得及び用地保全工事を実施。 用地測量：A=2.6ha、用地保全工事：L=20m

②成果を表す指標		指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	学校災害件数の割合	6.4	6.3	6.3	%	業務取得
	ii	事業費【平成24年度からの累計】	21,858	52,437	58,939	千円	決算書
	iii	工事延長【累計】	0	95	115	m	業務取得

③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算（事業費）の主な内訳		平成29年度予算
事業費（千円）	30,579	6,502	金額（千円）	内容	60,005
国支出金（千円）	11,140		5,940	用地測量	26,477
県支出金（千円）			562	用地保全工事	
市債その他（千円）	8,200				21,200
一般財源（千円）	11,239	6,502			12,328

Ⅳ　評価・検討

①課題	道路の拡幅等中長期的な時間を要する要望に対しては、まずは代替的な対策で対応せざるを得ない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	児童・生徒の通学路の安全性を早期に向上させる必要があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成28年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成28年度の計画	実施設計（用地測量）	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	用地測量、用地保全工事	7,000	7,000	当初 7,000	6,502	H27からの繰越	
③達成状況	完了			H27⇒28繰越		現年分	6,502
④未完了・非着手の理由				補正			
				流用・充当			
		平成29年度への繰越額（単位；千円）					

平成29年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	河川・水路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	整備時期は未定であるが、整備の目安がついた段階で、整備方針等の検討を行う。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	整備時期は未定であるが、整備の目安がついた段階で、整備方針等の検討を行う。また、松戸市とは、基本協定の事業期間を変更するが、早期に完了出来るよう事業期間を検討する。
②①に基づく取組み結果	整備の目安がついていないため、整備方針等の検討は行えなかった。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	①主要な水路 ②その他の水路	意図（対象をどうするのか）	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流末としての施設の確保及び流下能力の向上等を目的とした暫定改修や、上流域の流末としての機能確保のため、50mm/hrの降雨に対応した段階的な整備を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設について将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	・紙敷川改修事業として、L＝23.0mの河川改修を松戸市主体により実施した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
i	主要な水路の暫定改修実施率	6.50	6.50	6.50	%	業務取得
ii	主要な水路の50mm/hr改修実施率	2.60	2.60	2.60	%	業務取得
iii	浸水面積（河川水路）	31.9	31.9	31.9	ha	業務取得

③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算（事業費）の主な内訳		平成29年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	6,270	2,859			4,002
国支出金（千円）			2,859	紙敷川改修事業負担金	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	6,270	2,859			4,002

Ⅳ　評価・検討

①課題	下流河川の整備の目安がついていないため、50mm/hrの降雨に対応した整備に取り組めない。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、費用対効果を考慮した暫定改修については実施する必要がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	・紙敷川改修負担金
②計画に対する事業実績	・紙敷川改修負担金支払済
③達成状況	完了
④未完了・非着手の理由	

平成28年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
3,596	3,596	当初	3,596	2,859	H27からの繰越	0
		H27⇒28繰越	0		現年分	2,859
		補正	0			
		流用・充当	0			
平成29年度への繰越額（単位；千円）			0			

平成29年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	準用河川整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	下流河川の整備が進んできたことにより、上流側でも将来形の整備を行っていく。また、将来形を見据えた暫定的な整備を行うしかない箇所では、将来の整備に後戻りの無いよう効果的な手法の検討を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	準用河川	意図（対象をどうするのか）	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流下能力の向上と護岸の保護を目的とした暫定改修や、50mm/hrの降雨に対応した改修などの計画策定を行い、上下流の状況を考慮し段階的な河川の改修を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。下流側の整備が進んできている場所もあり、市域の河川整備が可能な場所もある。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果

・準用河川中沢川護岸改修工事にて、L=60mの改修を行った。
・準用河川二和川バイパス改修工事にて、L=150mの改修を行った。
・馬込沢地区ポンプ設置工事にて、マンホールポンプ1基を設置した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
i	暫定改修実施率	19.73	21.08	21.70	%	業務取得
ii	50mm/hr改修実施率	11.42	11.42	11.42	%	業務取得
iii	浸水面積（1級河川、準用河川）	81.5	81.5	81.5	ha	業務取得

③事務事業のコスト

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算（事業費）の主な内訳		平成29年度予算
事業費（千円）	104,223	137,227	金額（千円）	内容	424,857
国支出金（千円）			31,100	二和川ﾊﾞｲﾊﾟｽ整備（第1期）工事	109,731
県支出金（千円）			28,894	中沢川護岸改修工事	0
市債その他（千円）	45,500	51,900	16,825	二和川バイパス改修工事	295,320
一般財源（千円）	58,723	85,327	13,100	馬込沢地区ﾎﾟﾝﾌﾟ設置工事	19,806

Ⅳ　評価・検討

①課題

河川改修は下流から行うのが原則であるため、現時点で最も効果のある箇所を選定し、将来の整備に後戻り無いよう実施する必要がある。また、交付金事業については、交付率が低くなっており、当初想定している範囲の整備が行えない。

②評価

i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		

③上記評価の理由

浸水被害により市民の生命・財産に被害が及ぶため、速やかに河川改修を行う必要性がある。

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	中沢川護岸改修工事、二和川バイパス改修工事、二和川護岸改修（第30期）工事、二和川バイパス工事（第1期）、用地購入（企業庁用地）
②計画に対する事業実績	中沢川護岸改修工事、二和川バイパス改修工事、用地購入（企業庁用地）を完了した。
③達成状況	未完了
④未完了・非着手の理由	二和川護岸改修（第30期）工事、二和川ﾊﾞｲﾊﾟｽ整備（第1期）工事は、H29へ繰り越したため。

平成28年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
325,710	395,391	当初	325,710	137,227	H27からの繰越	70,242
		H27⇒28繰越	70,242			
		補正	0		現年分	66,985
		流用・充当	−561			

平成29年度への繰越額（単位；千円）　91,147

平成29年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	地域排水整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、過年度から進めている箇所の整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な最も効果のある整備手法の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	地域排水施設	意図（対象をどうするのか）	浸水被害の軽減
②事務事業の概要	浸水被害の直接的な原因が地域排水施設の能力不足や未整備であるものについて、下流への影響を考慮しつつ、河川・水路までの施設整備を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、接続する河川・水路の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果

・鎌ケ谷二丁目地区地域排水整備工事（第1期）（第2期）にて延長約133mの整備を行った。
・道野辺中央五丁目地区地域排水整備工事にて延長約130mの整備を行った。
・浸透桝設置モニター工事にて浸透桝を16基設置した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
i	整備工事完了・着手箇所数	20	21	21	箇所	業務取得
ii	浸水面積（地域排水）	11.1	10.1	10.1	ha	業務取得
iii	浸透桝設置基数	6,587	6,679	6,781	基	業務取得

③事務事業のコスト

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算（事業費）の主な内訳 金額（千円）	内容	平成29年度予算
事業費（千円）	30,591	78,686			54,046
国支出金（千円）			32,400	鎌ケ谷二丁目地区地域排水整備工事（第2期）	
県支出金（千円）			26,794	鎌ケ谷二丁目地区地域排水整備工事（第1期）	
市債その他（千円）	11,200	41,700	12,545	道野辺中央5丁目地区地域排水整備工事	34,600
一般財源（千円）	19,391	36,986	1,036	浸透桝設置モニター工事	19,446

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、費用対効果を考慮し事業を進める必要がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	鎌ケ谷二丁目地区地域排水整備工事（第1期）（第2期）、道野辺中央五丁目地区地域排水整備工事、浸透桝設置モニター工事
②計画に対する事業実績	鎌ケ谷二丁目地区地域排水整備工事（第1期）（第2期）、道野辺中央五丁目地区地域排水整備工事、浸透桝設置モニター工事を完了した。
③達成状況	完了
④未完了・非着手の理由	

平成28年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
57,193	84,192	当初	57,193	78,686	H27からの繰越	26,794
		H27⇒28繰越	26,999		現年分	51,892
		補正	0			
		流用・充当	0			
平成29年度への繰越額（単位；千円）			0			

平成29年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	雨水貯留池整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	雨水貯留池	意図（対象をどうするのか）	河川の流量の調整を行う。 雨水の流出を抑制する。
②事務事業の概要	浸水被害の軽減のために必要な、河川調節池の整備と流出抑制を目的とした貯留池の整備を行う。整備にあたっては、河川の整備計画との整合を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	・串崎新田貯留池の用地面積約2,716㎡の購入を行った。 ・雨水貯留池用地として北中沢２丁目で約125㎡の用地購入を行った。

②成果を表す指標		指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	河川調節池の暫定整備率	85.71	85.71	85.71	%	業務取得
	ii	河川調節池の整備率	57.14	57.14	57.14	%	業務取得
	iii	貯留量	40,421	40,421	40,421	m3	業務取得

③事務事業のコスト		平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算（事業費）の主な内訳		平成29年度予算
事業費（千円）		23,210	75,453	金額（千円）	内容	44,990
	国支出金（千円）	0	0	68,443	串崎新田貯留池用地購入費	
	県支出金（千円）	0	0	5,456	雨水貯留池用地購入（北中沢2丁目）	
	市債その他（千円）	10,900	51,500			31,300
	一般財源（千円）	12,310	23,953			13,690

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	都市化が進展し、下流の河川整備が進まない現状で浸水被害の軽減を図るには、貯留池を整備することが最善の治水対策と考えられるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	用地購入（企業庁用地）、串崎新田貯留池（用地借上、用地購入）
②計画に対する事業実績	用地購入（企業庁用地）、串崎新田貯留池（用地借上、用地購入）を完了した。
③達成状況	完了
④未完了・非着手の理由	

平成28年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
75,002	75,564	当初	6,558	75,453	H27からの繰越	0
		H27⇒28繰越	0		現年分	75,453
		補正	68,444			
		流用・充当	562			

平成29年度への繰越額（単位；千円）　0

平成29年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	都市計画道路3・4・5号船橋我孫子バイパス線整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	境界が確定となるよう、事業主体である千葉県と連携を図る。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	境界が確定となるよう事業主体である千葉県と連携を図っていき、引き続き用地交渉を実施する。
②①に基づく取組み結果	事業主体である千葉県と連携を図った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・5号線	意図（対象をどうするのか）	整備することで交通の利便性を向上させる。
②事務事業の概要	県道船橋我孫子線のバイパスとしての都市計画道路であり、市域東側の主動線を確保し、県が事業主体となり事業を施行する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	南初富区間から新鎌ケ谷地区まで供用開始したことにより、県道船橋我孫子線のバイパスとしての機能を発揮することが求められている。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	地権者との交渉が難航し用地取得できなかった。

②成果を表す指標		指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	—	—	—	%	市民意識調査

③事務事業のコスト		平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算（事業費）の主な内訳		平成29年度予算
事業費（千円）		203	0	金額（千円）	内容	1,000
	国支出金（千円）			0	市町村負担金	
	県支出金（千円）					
	市債その他（千円）					
	一般財源（千円）	203				1,000

Ⅳ　評価・検討

①課題	境界が未確定の箇所があり、事業用地を取得できない。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	機能的な道路ネットワークの構築や利用者の利便性・安全性の向上を図るべく道路の完成を目指す必要性がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成28年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成28年度の計画	地元負担金	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	地元負担金未支出	3,000	3,000	当初	3,000	0	H27からの繰越　0
③達成状況	非着手			H27⇒28繰越			現年分　0
④未完了・非着手の理由	地権者との交渉が難航し用地取得できなかったため。			補正			
				流用・充当			
		平成29年度への繰越額（単位；千円）					

平成29年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	新京成線連続立体交差事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	事業の進捗を図るため、事業主体である千葉県及び関係機関と調整するとともに、必要な財源の確保を図る。
②①に基づく取組み結果	事業主体である千葉県及び関係機関と調整行い、必要な財源の確保を図った。
③平成29年度に取組む改革・改善内容	計画下り線（津田沼方面　延長3,257m）について高架化を実施するとともに、都市交通の事業の進捗を図るため引き続き事業主体である千葉県及び関係機関と調整し必要な財源の確保を図る。

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	新京成線高架橋	意図（対象をどうするのか）	関係機関と調整し、高架を実現させる（地元負担金を支払う）。
②事務事業の概要	本市の東西を走る新京成線を高架化し、踏切遮断による交通渋滞や市街地の分断等を解消する目的で、県が事業主体となり事業を施行する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	新京成線の踏切遮断により交通渋滞が発生していることから、安全性、快適性のため踏切を早く除却するように求められている。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	・初富・新鎌ケ谷・北初富の高架駅舎工事、計画下り線（津田沼方面）軌道・電気工事を実施した。 ・総事業費を350億円から約495億円に変更及び事業期間を平成29年度から平成36年度とする認可変更を行った。

②成果を表す指標

	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
i	用地取得率(取得済/用地面積)	100	100	100	%	業務取得
ii	事業進捗率（事業費ベース）	77	84	72	%	業務取得
iii						

③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算（事業費）の主な内訳		平成29年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	382,256	1,006,056			626,489
国支出金（千円）			1,006,056	県事業への負担	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）	329,900	888,800			413,100
一般財源（千円）	52,356	117,256			213,389

Ⅳ　評価・検討

①課題	踏切による交通渋滞が多く、市街地が分断されている。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民から早期完成が求められているため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成28年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成28年度の計画	負担金	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	県に負担金を支出した。	773,846	1,123,846	当初 773,846	1,006,056	H27からの繰越	
				H27⇒28繰越			
③達成状況	未完了			補正 350,000		現年分	1,006,056
④未完了・非着手の理由	事業主体である県が繰り越したため。			流用・充当			
		平成29年度への繰越額（単位；千円）			112,400		

平成29年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	都市計画道路3・4・10号中沢北初富線整備事業（中沢）	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	地質調査、用地取得を積極的に進める。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	都市計画道路用地と調節池用地の重複する箇所について、代替地を取得する。
②①に基づく取組み結果	物件調査及び用地取得を実施した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・10号線	意図（対象をどうするのか）	測量、設計、用地補償、工事を行い、道路整備を行う。
②事務事業の概要	一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗に合わせ、都市計画道路の整備を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	本市の中心部から市川への主要な道路として、当該都市計画道路の整備を一級河川大柏川第二調節池整備事業に合わせ一体的に事業を進めていく。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果：物件調査及び用地取得を実施した（A=3,586.45㎡）

②成果を表す指標

	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
iii	「道路の状況」不満足度	—	—	—	%	市民意識調査

③事務事業のコスト

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算（事業費）の主な内訳 金額（千円）	内容	平成29年度予算
事業費（千円）	14,626	78,724			29,975
国支出金（千円）			988	物件調査	
県支出金（千円）			69,001	用地取得	
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	14,626	78,724			29,975

Ⅳ　評価・検討

①課題：一級河川大柏川第二調節池整備事業との整備計画の整合を図ること。

②評価

i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		

③上記評価の理由：一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗状況と合わせ周辺の一体的な整備が必要である。

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	用地購入
②計画に対する事業実績	物件調査、用地取得
③達成状況	完了
④未完了・非着手の理由	

平成28年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
32,639	86,231	当初	32,639	78,724	H27からの繰越	51,329
		H27⇒28繰越	57,500			
		補正			現年分	27,395
		流用・充当	−3,908			
平成29年度への繰越額（単位；千円）						

平成29年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	新鎌ケ谷西側地区都市計画道路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方　敦雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	事業量を拡大するため国の交付金の導入を図り、用地取得を積極的に進める。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	事業量を拡大するため国の交付金の導入を図り、用地取得を積極的に進める。
②①に基づく取組み結果	交付金を導入し、用地取得を実施した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・3・16号線、都市計画道路3・4・10号線	意図（対象をどうするのか）	測量、設計、用地補償、工事を行い、道路整備を図る。
②事務事業の概要	当該都市計画道路の整備により、新鎌ケ谷地区内の発生集中交通を円滑に処理する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	新鎌ケ谷特定土地区画整理事業により交通の発生集中が生じていることから、平成25年度から本事業を開始した。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	用地取得（A=462.07m2）、物件調査及び物件調査詳細設計委託の実施。

②成果を表す指標		指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	—	—	—	%	市民意識調査

③事務事業のコスト		平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算（事業費）の主な内訳		平成29年度予算
事業費（千円）		69,570	100,787	金額（千円）	内容	127,628
	国支出金（千円）		38,895	15,276	用地取得	28,632
	県支出金（千円）					
	市債その他（千円）	61,000	53,500			38,600
	一般財源（千円）	8,570	8,392			60,396

Ⅳ　評価・検討

①課題	当該都市計画道路は東西にアクセスする道路がないため、早期に事業を進めていく必要がある。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	新鎌ケ谷地区と西部地区の交通を円滑に処理し、道路利用者の安全性や利便性の向上を早急に図る必要性がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成28年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成28年度の計画	用地購入	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	用地取得、物件調査、物件調査詳細設計委託	96,941	129,161	当初 96,941	100,787	H27からの繰越	28,312
				H27⇒28繰越 28,312			
③達成状況	未完了			補正		現年分	72,475
④未完了・非着手の理由	物件調査及び用地交渉に不測の時間を要したため。			流用・充当 3,908			
		平成29年度への繰越額（単位；千円）			28,163		